

第6学年 単元名「明治の国づくりを進めた人々」

実施日時：2020年12月14日 14時25分～15時10分（6時間目）

杉並区立天沼小学校 新宅 直人

I 実践にあたっての基本的な考え方

本単元の第4～5時で文明開化について学ぶ際に、その入り口としてガス灯を扱う。当時のガス灯事業の進展の様子や携わった人々、ガス灯を目にした人々の反応など児童の興味・関心を大きく惹きつける資料が多くあるため、文明開化について調べるきっかけとして効果的だと考えられる。指導の工夫としては、ガス灯が敷設された場所の地図や、本数の変遷が分かる統計資料等を中心に提示するが、当時の人々の気持ちに共感できるように、実際のガス灯の明るさを体験する活動も取り入れる。本実践を通して、ガス灯を含めた西洋文化が日本に入ってきたことで人々の生活様式が大きく変化したことを捉えさせたい。それと同時に、時期や時間に着目した資料（主に年表）や空間の広がりに着目した資料（主に分布図）を正確に読み取らせることで、文明開化がどの範囲で、どれぐらいの時間をかけて進んでいたのかを捉えさせたい。

II 学習指導案（本時）

※別添のこと

III 実践の模様（概略）

- 導入の戯れ歌（童戯百人一首）を使ったクイズ、続く「点消方とはどのような仕事か」というクイズでは、児童から正解が出なかった。正解を発表した際には驚きの声が上がっていた。（点消方がどんな仕事かについてのクイズでは、法被を着たゲストティーチャーの姿から、「火を消す消防の人」や「花火に火を点ける人」といった意見が出た。）
- ゲストティーチャーによる蠟燭、ガスの裸火、マントルを付けた明かりの比較実験では、マントルをつけた火の明るさに驚いていた。（明るさと同時に、光の色が変わっていたことにも驚いていた。）
- 本時の課題である「ガス灯によって人々の暮らしや町の様子はどのように変わったのだろう」に対する予想は、「夜寝る前に本が読めるようになった」や「夜でも商売ができるようになった」、「夜に出歩く人が増えた」など、予想通りの反応が見られた。
- 本時では、課題追究の場面でガス灯の普及について3つの視点で行った。①時期や時間の経過に関する視点、②位置や空間的な広がりに関する視点、③人物の働き、の3つである。全員がそれぞれの視点について調べると時間がとても足りないので、グループごとに分担して調べ、後から報告し合う形式にした。①については年表資料、②は地図及び分布図、③は文章資料を与え、調べさせた。

Ⅳ 成果と課題、反省

(記入欄)

○導入として、「童戯百人一首」や「点消方の法被」を用いたクイズ、明かりの比較実験を取り入れたことは児童の学習意欲を高める上で有効だった。

○ガス灯の普及について、「いつの時代に何年かけて広まったのか」や「どの程度の範囲に広まったのか」を正しく認識させることができた。

△調べる活動はグループ内での分担制だったので、すべての児童が3つの視点について正しく理解できたかどうかについては不安が残る。

△導入に時間がかかり、45分の授業に収まらなかった。どの部分を削るべきか、再考する必要がある。